

# 耳鼻咽喉科女性医師 アンケート調査結果 -2008年と2018年との比較-

丸山裕美子<sup>1,2)</sup>, 小林一女<sup>1,3)</sup>, 濱田昌史<sup>1,4)</sup>,  
森田由香<sup>1,5)</sup>, 吉崎智一<sup>1,6)</sup>

1) 日本耳鼻咽喉科 男女共同参画委員会

3) 昭和大学 耳鼻咽喉科

5) 新潟大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科,

2) 黒部市民病院 耳鼻いんこう科

4) 東海大学 耳鼻咽喉科

6) 金沢大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

# はじめに

- 少子高齢化，労働人口の減少がすすむ本邦において，男女すべての医師がモチベーションを保ち続けることができる環境を整えることは重要と考えられる。
- 2000年以降，医師国家試験の合格者数の3割以上が女性であり，医師全体に占める女性の割合も3割である。
- 上記をふまえ，就業の実態と現在求められる職場環境の改善点を確認することを目的に，日本耳鼻咽喉科学会男女共同参画委員会により，2008年および2018年に日耳鼻女性会員に対しアンケート調査がおこなわれた。
- 回収/配布件数および回収率は以下の通りであった。

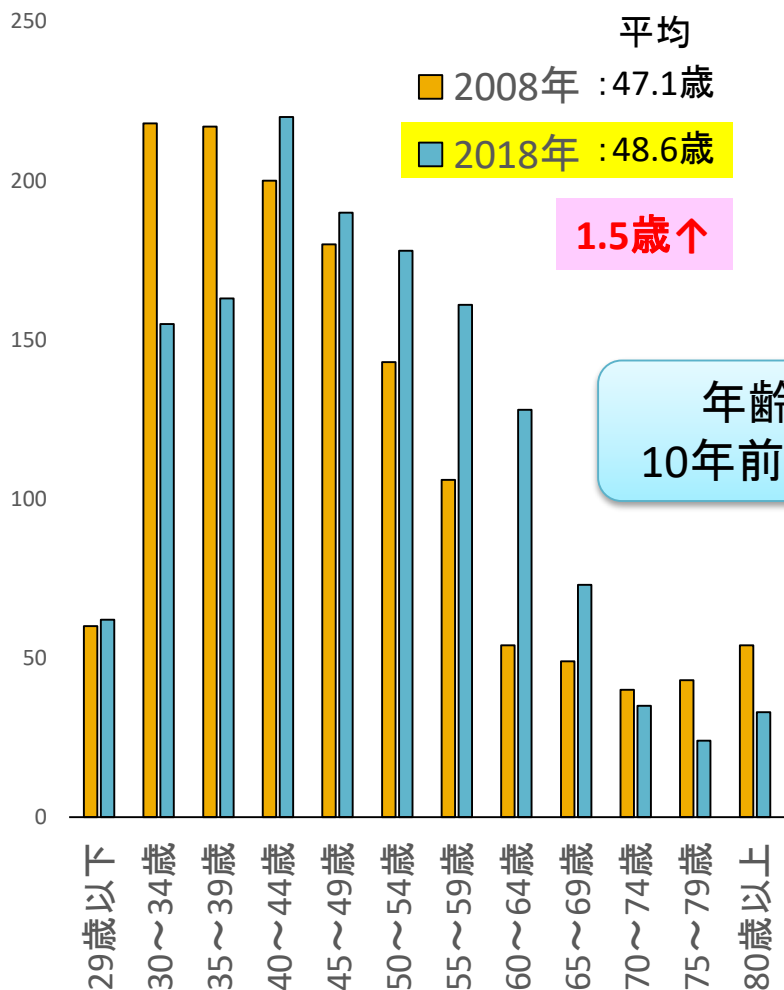
2008年: 1,434/2,127件	回収率67.4%	回収率は低下したが 回答総数はほぼ同程度
2018年: 1,424/2,554件	回収率55.8%	
- 今回、2回にわたる同調査について比較し検討したのでここに報告する。

※なお、各回答については無回答、無効回答は除き、有効な回答数をもとに検討をおこなった。

すべての回答者への設問

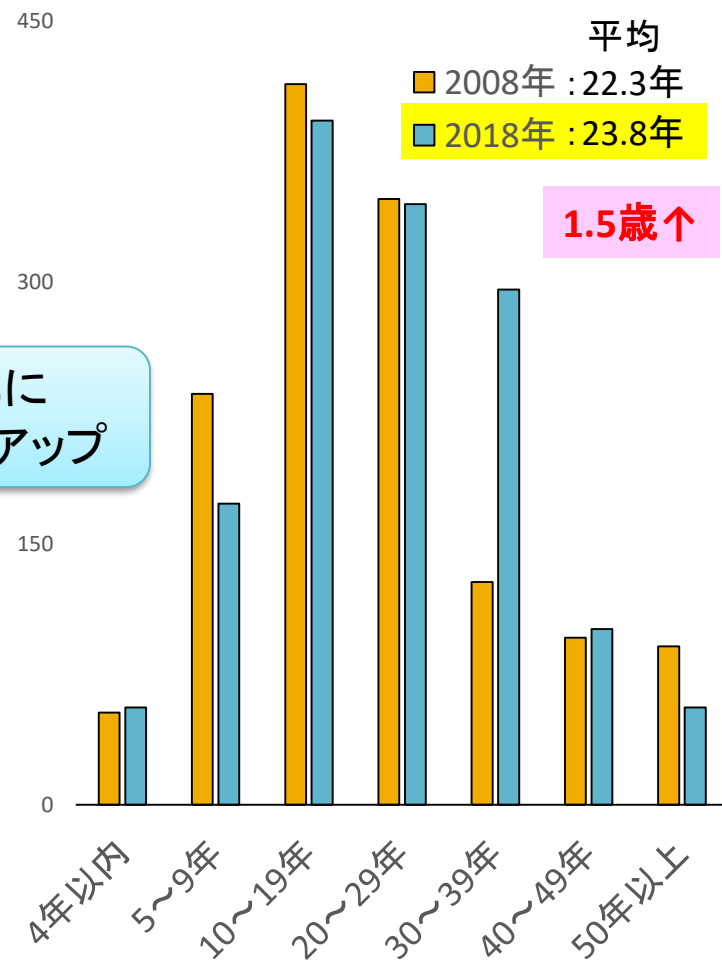
1~5

# Q1: 年齢



年齢・卒後年数ともに  
10年前に比較し1.5歳アップ

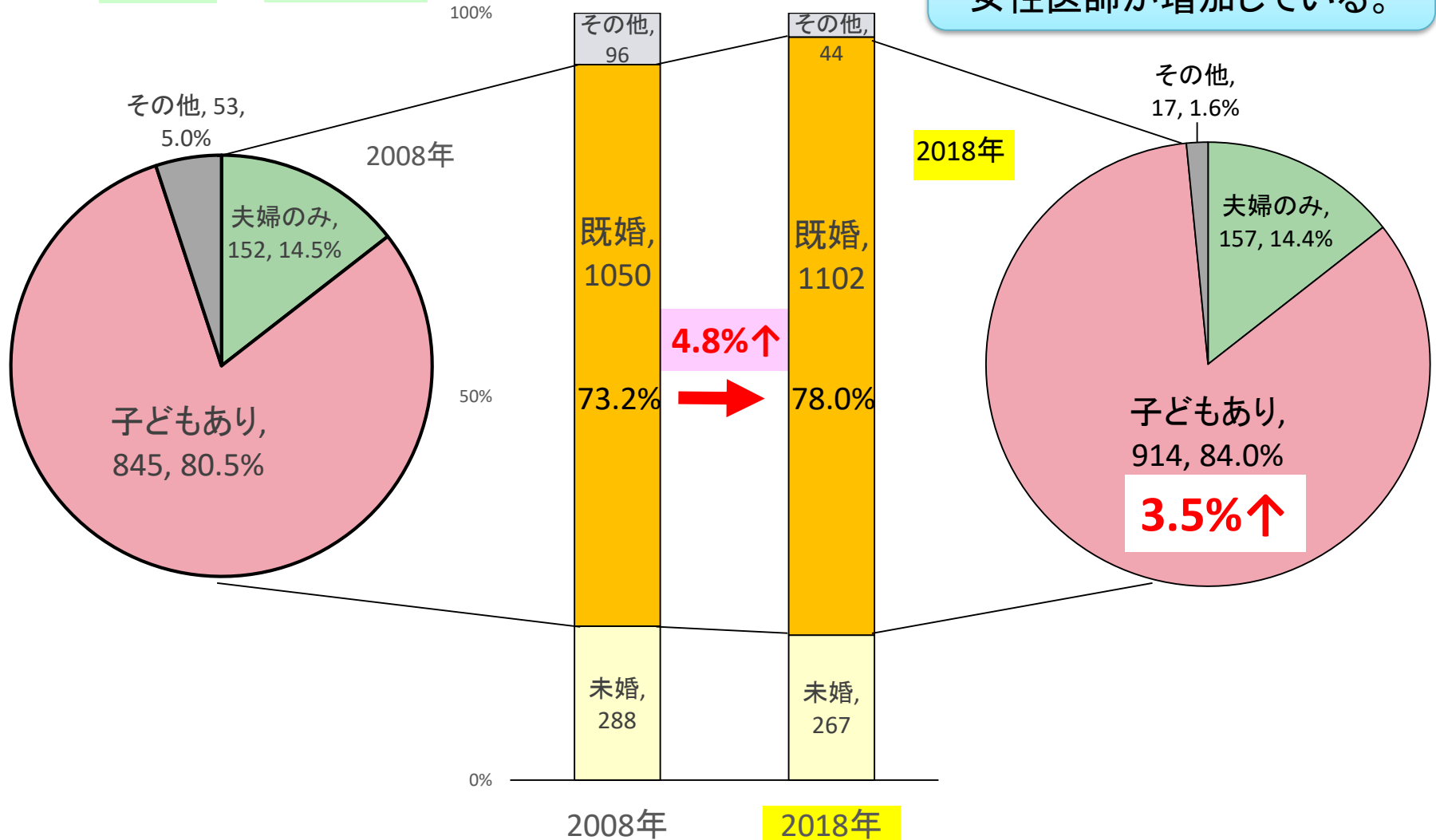
# Q2: 卒後年数



回答者の概算の  
平均年齢は 2008年:47.1歳→2018年:48.6歳,  
卒後年数は 2008年:22.3歳→2018年:23.8年と  
いずれも約1.5歳アップしていた

# Q4:結婚と子ども

結婚し、子どもを持つ女性医師が増加している。

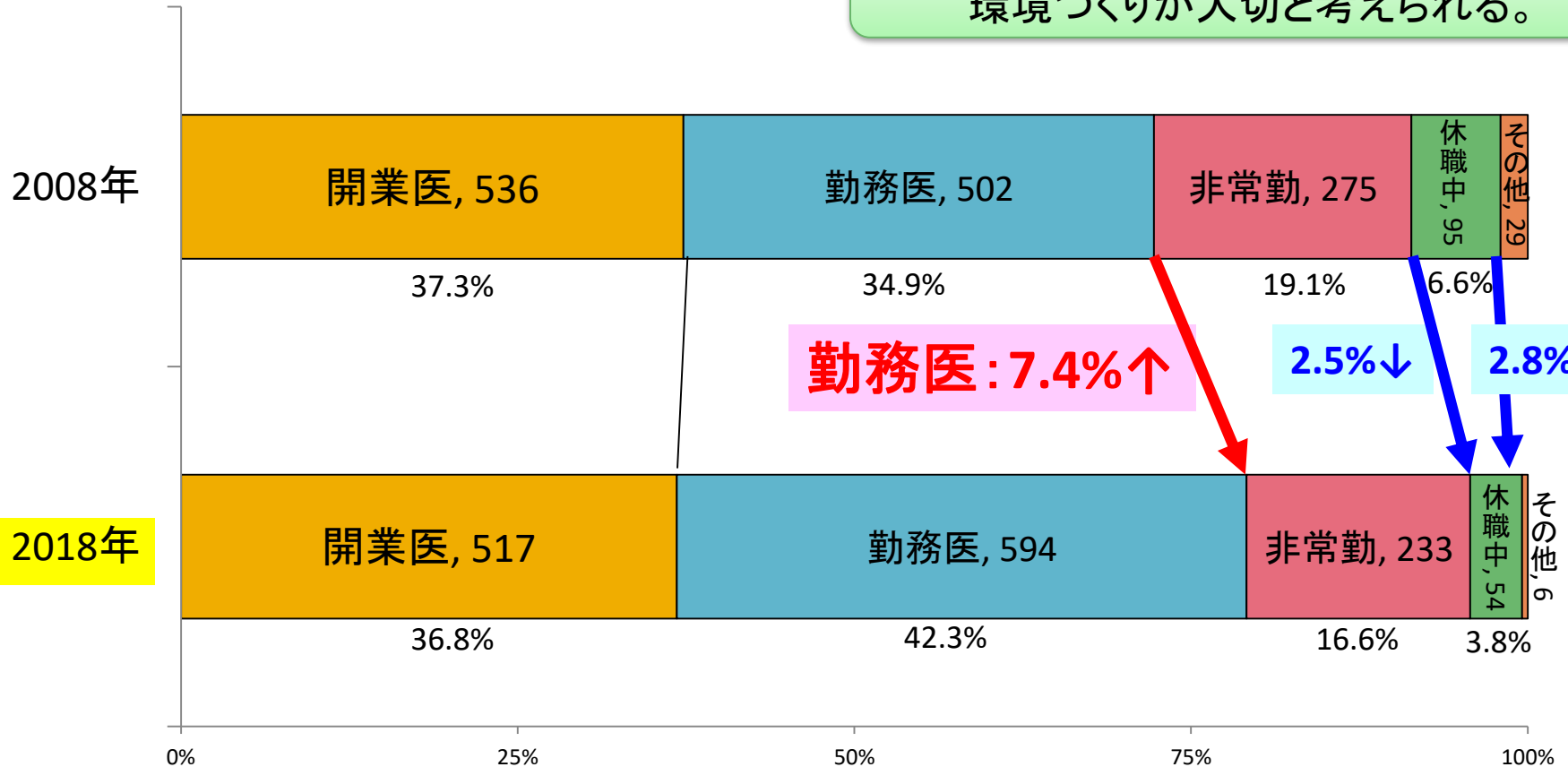


結婚と子どもの有無については、平均年齢1.5歳上昇が影響した可能性も考慮されるが、既婚は2008年:73.2%→2018年:78.0%と4.8%増加し、既婚者のうち子どもがおられる先生が80.5%→84.0%と3.5%増加していた。回答者において結婚し子どもをもつ女性医師の割合が増えていた。

# Q5:現在の主たる就労形態

勤務医として働く医師が増加している。

育児をしながら勤務医を継続できる環境づくりが大切と考えられる。



就労形態についてその割合は、開業医に大きな変化は認められないが

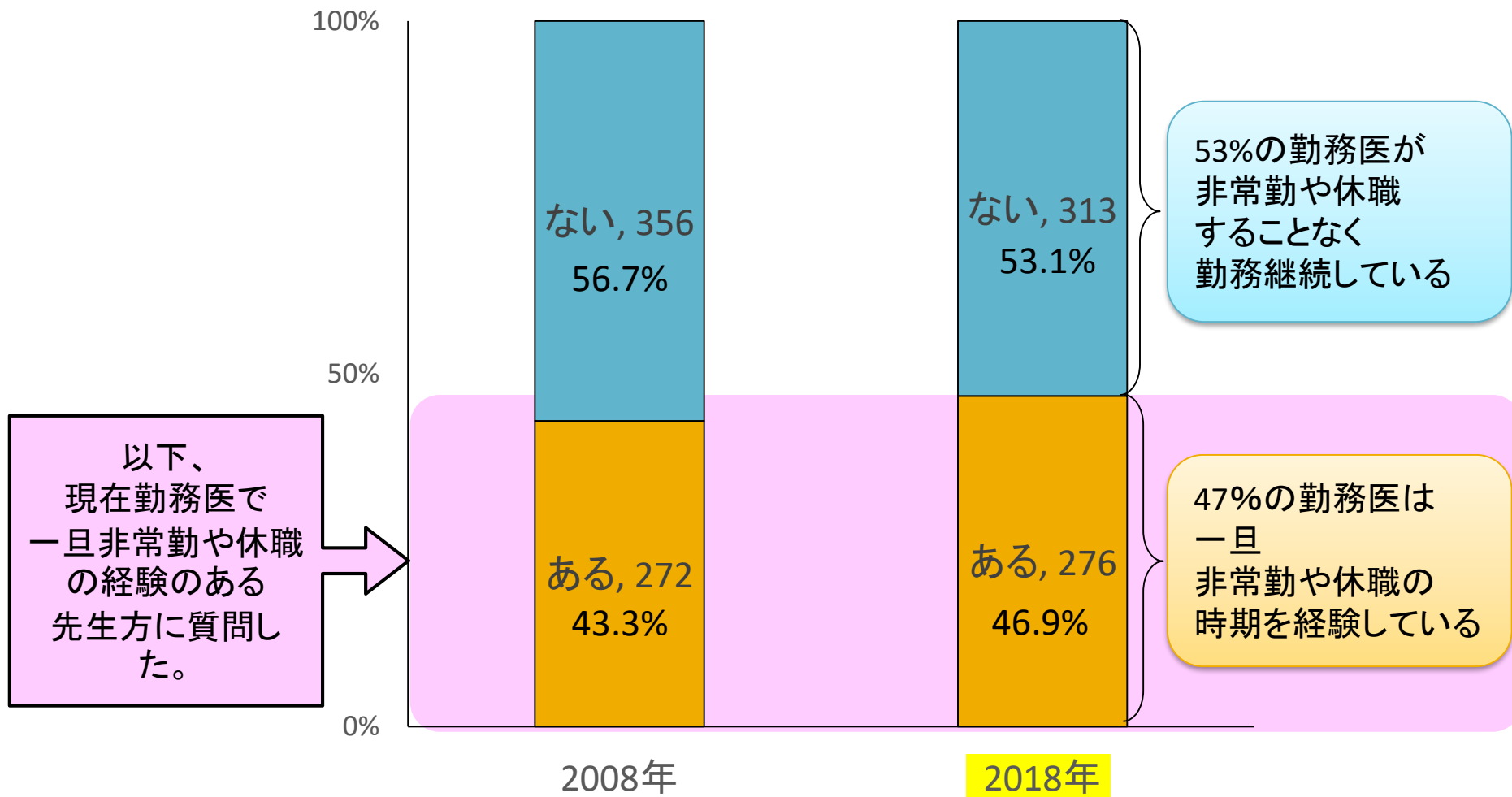
勤務医は2008年:37.3%、→2018年:42.3%と7.4%増加し

非常勤は19.1%→16.6%と2.5%減少、休職中は6.6%→3.8%と2.8%減少の傾向にあった。

# 勤務医の先生への設問

10～16

# Q10:今まで非常勤勤務・休職などをしたことがありますか？



現在勤務医の先生のうち53%の医師は常勤を継続している一方で47%の先生が一旦、非常勤や休職の時期を経験していたことが分かった。



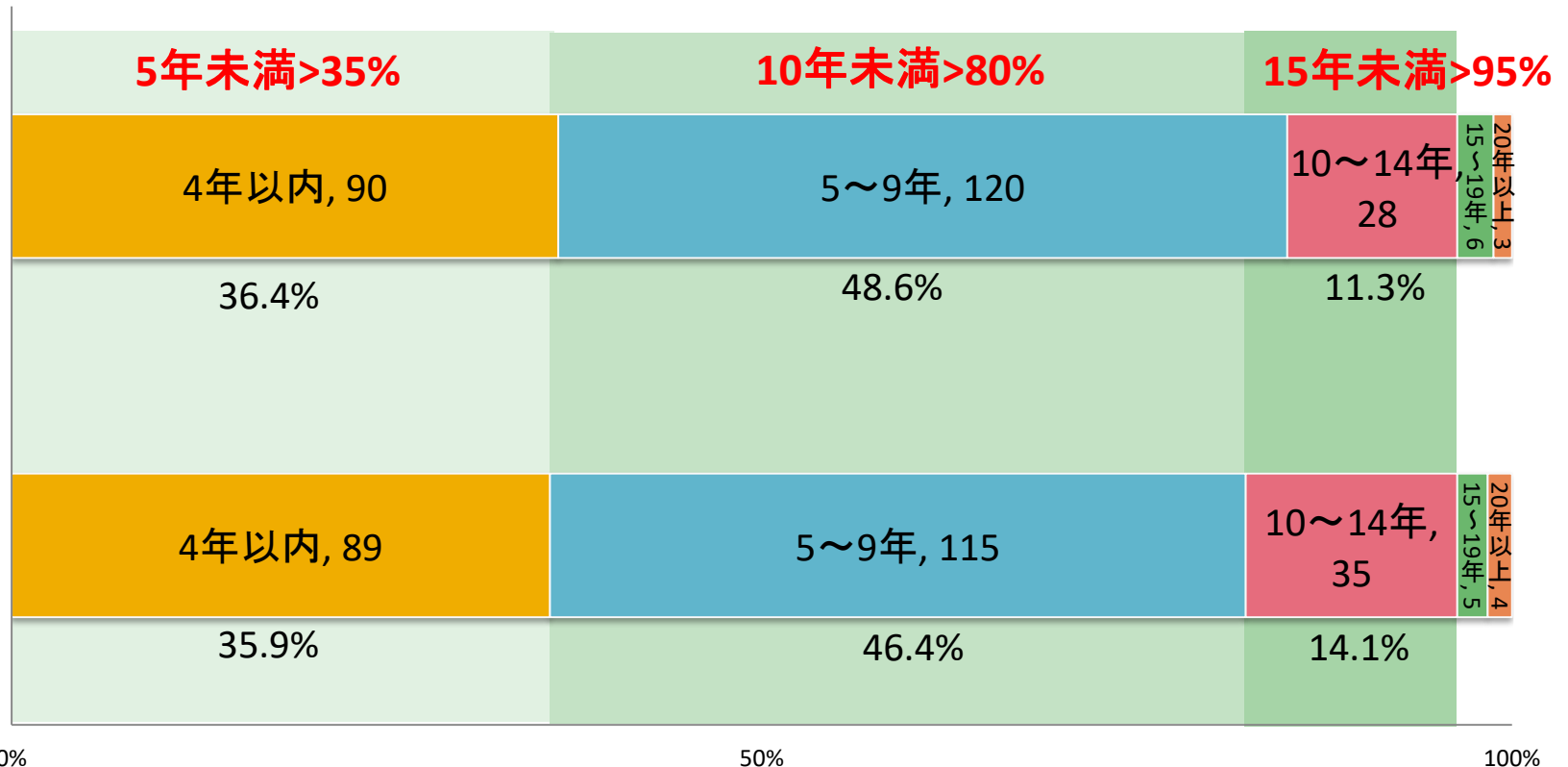
対象：勤務医のうち休職・非常勤の経験のある先生

Q12:勤務医を一時的に辞めた時期は卒後何年目？

卒後10～15年の  
女性医師の  
サポートが大切



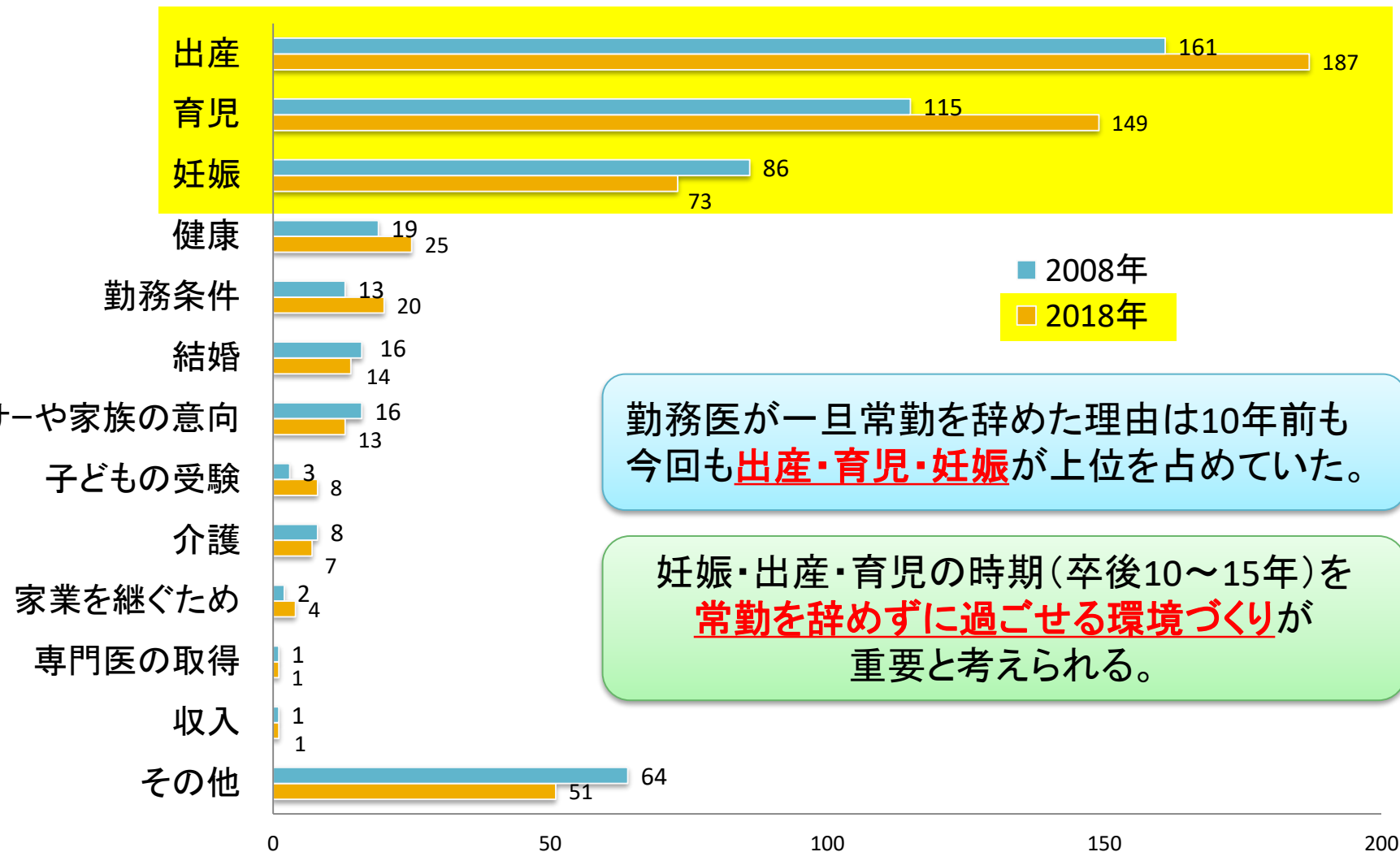
この期間を乗り越えられれば  
非常勤や休職を選択する先生が  
減る可能性あるのではないか



10年前も今も勤務医が一時的に休職や非常勤を選択したタイミングはほぼ変化なく卒後5年未満が35%以上、10年未満が80%以上、15年未満が95%以上であった。

# 対象：勤務医のうち休職・非常勤の経験のある先生

## Q11:勤務医を一時的に辞めた理由は？（複数回答可）



勤務医が一旦常勤を辞めた理由は10年前も今回も出産・育児・妊娠が上位を占めていた。

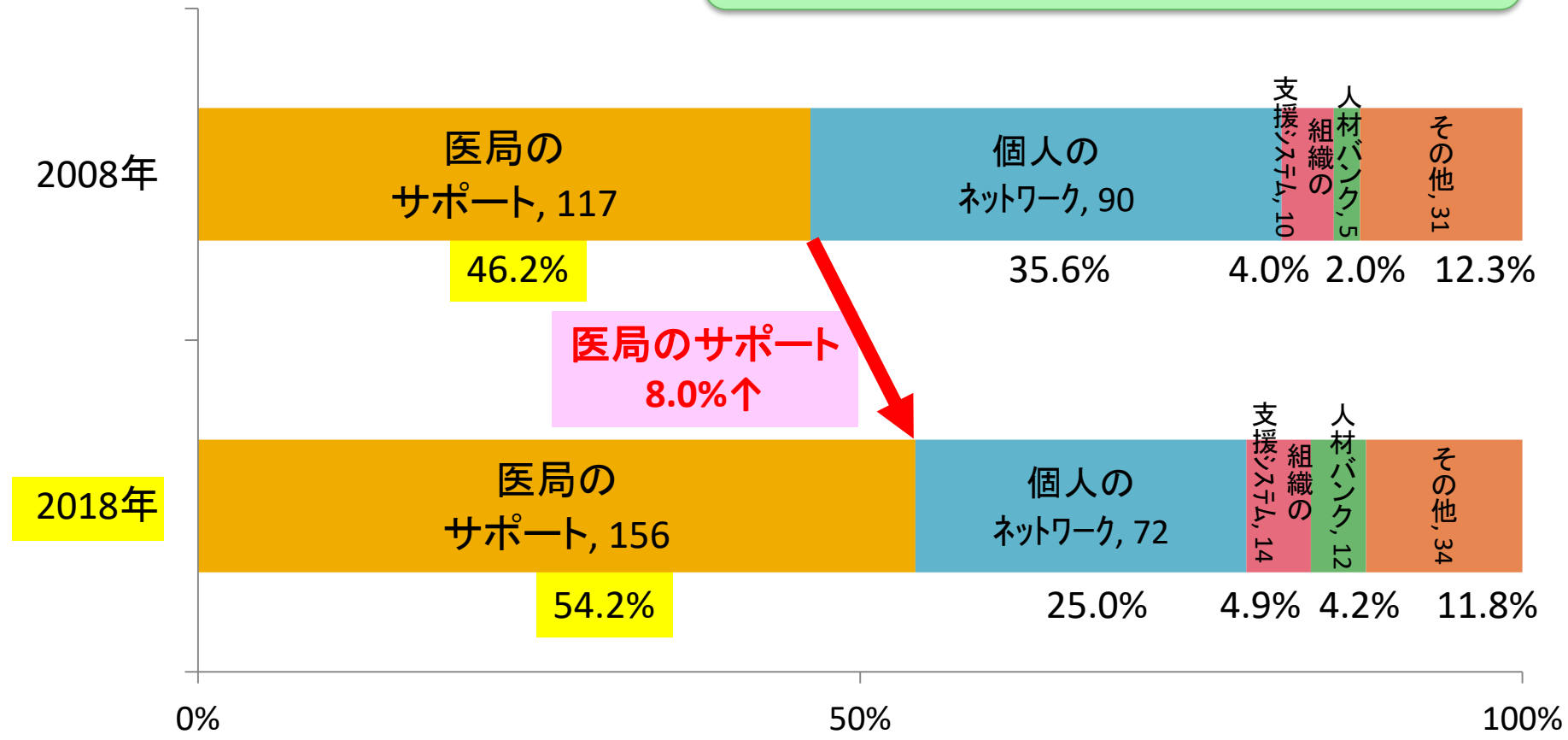
妊娠・出産・育児の時期(卒後10~15年)を常勤を辞めずに過ごせる環境づくりが重要と考えられる。

現在の勤務医が一時的に休職や非常勤を選択した理由について  
2008年, 2018年共に1位が出産, 2位が育児, 3位が妊娠であった。

対象：勤務医のうち休職・非常勤の経験のある先生

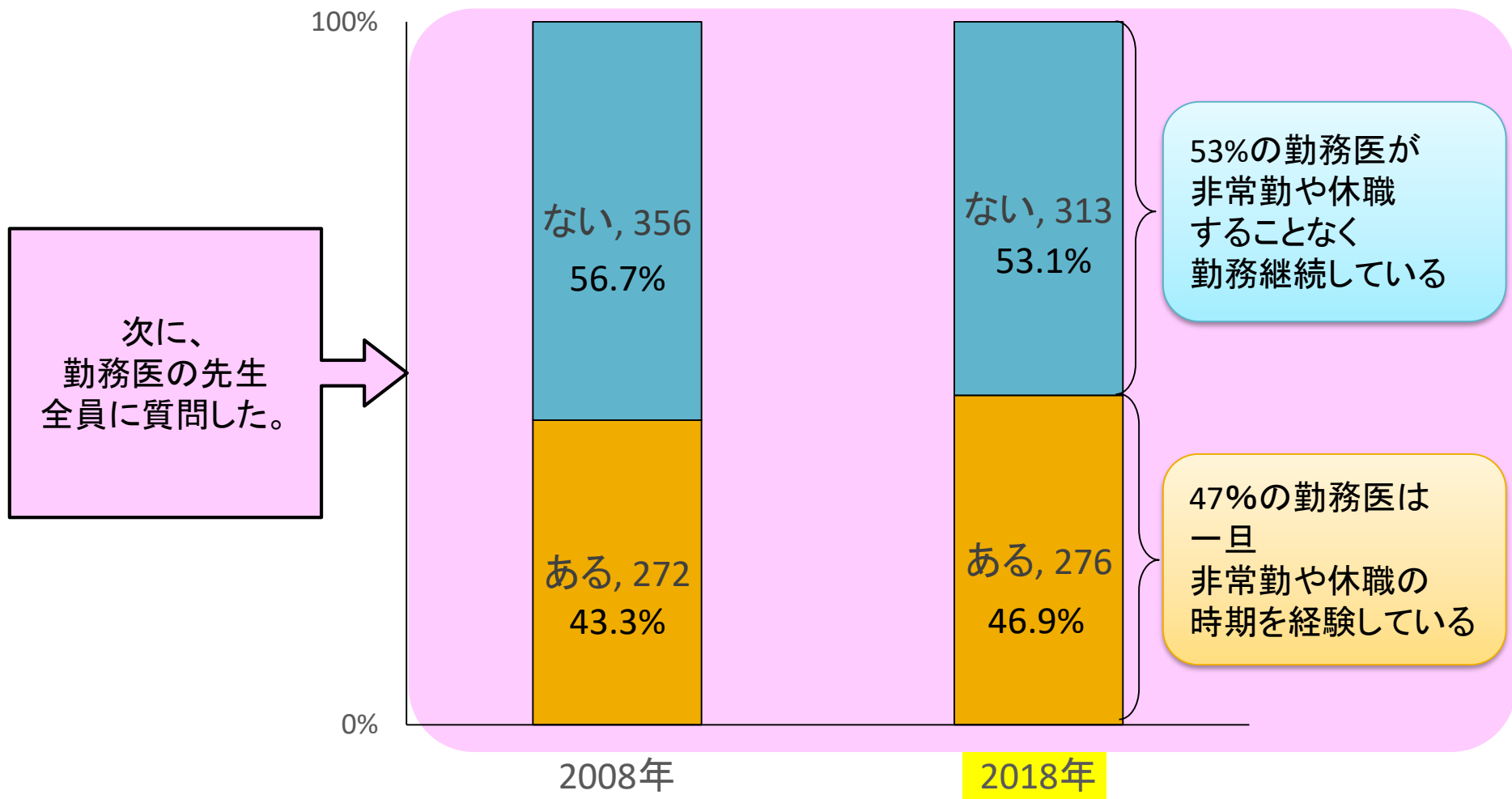
Q14:復職のきっかけは? (複数回答可)

復職のために医局のサポートがさらに重要なきっかけとなっている。



勤務医のうち一時的に休職・非常勤を経験した医師において復職のきっかけとなったのは医局のサポートが2008年:46.2%→2018年:54.2%と8.0%増加していた。また組織の支援システムや人材バンクも軽度増加を認めた。

# Q10:今まで非常勤勤務・休職などをしたことがありますか？

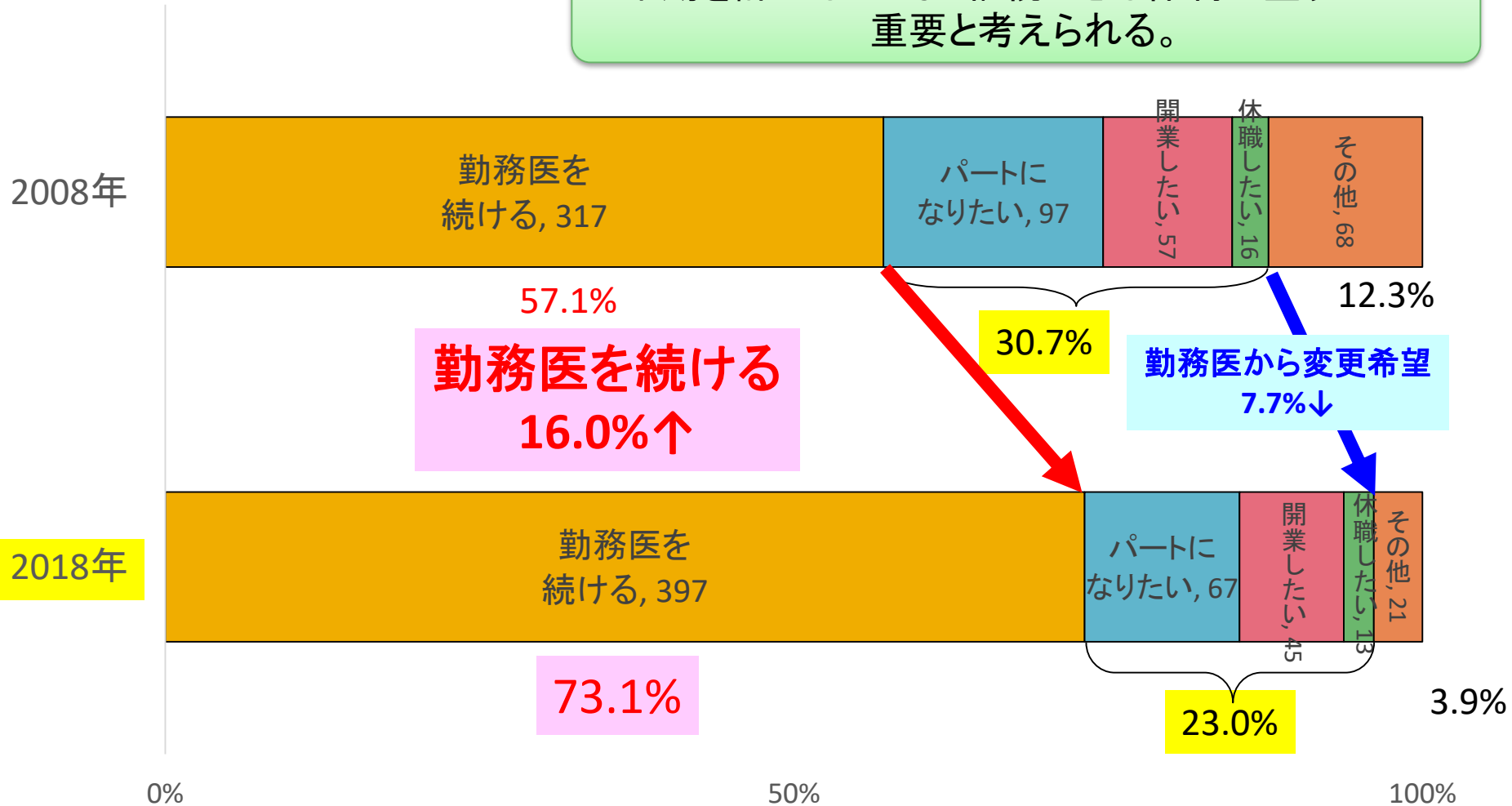


# 対象：勤務医全体

## Q15: 今後の希望は?

**勤務医継続を希望**する医師が**著明に増加**している。

常勤を辞めることなく継続できる体制が整うことが重要と考えられる。



勤務医の今後の勤務形態希望について

勤務医継続を希望する医師は2008年:57.1%,→2018年:73.1%と16.0%増加しており

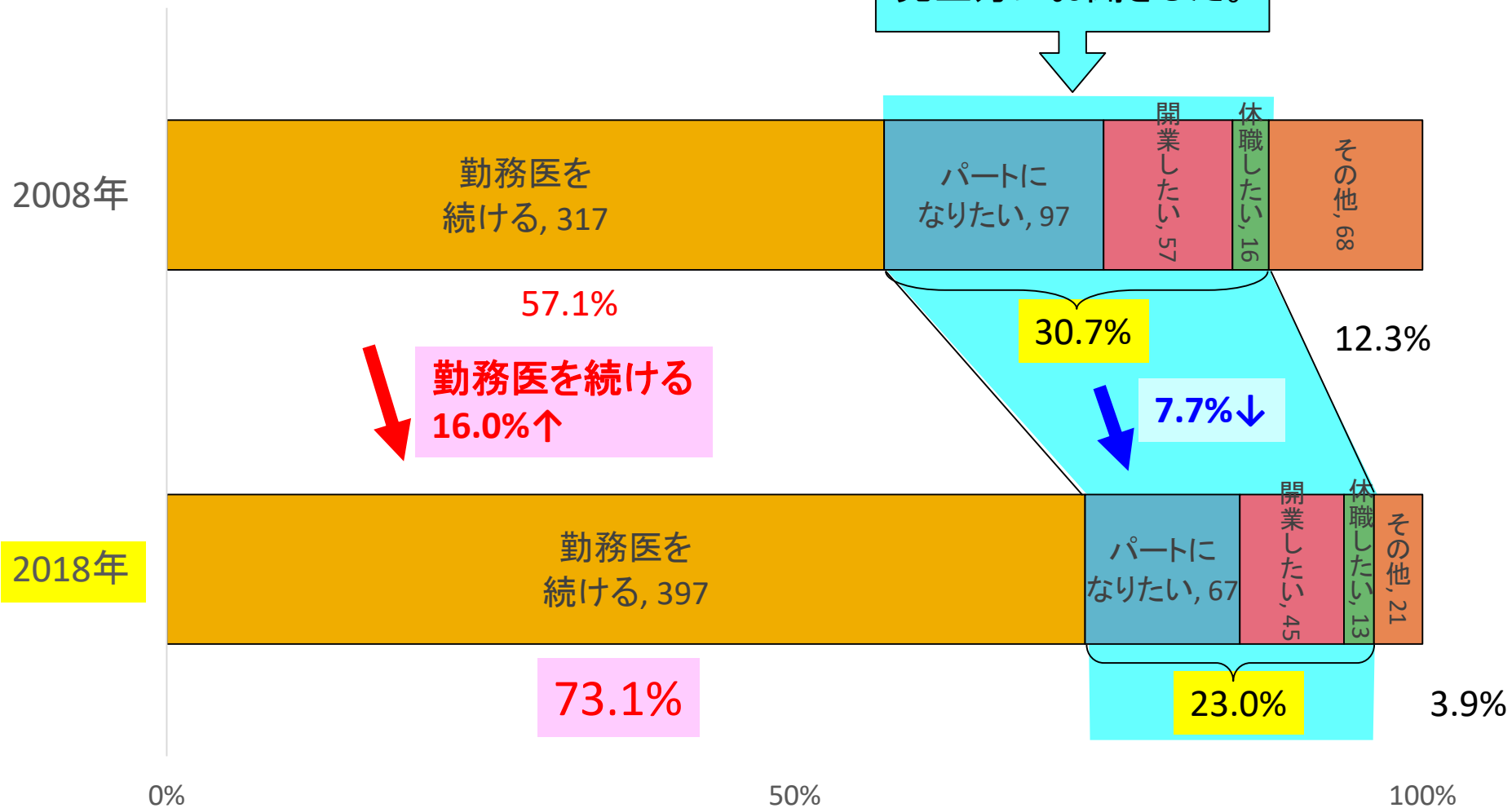
「パートになりたい」+「開業したい」+「休職したい」は30.7% →23.0%と減少したことがわかった。

# 対象：勤務医全体

<勤務医の先生への質問>

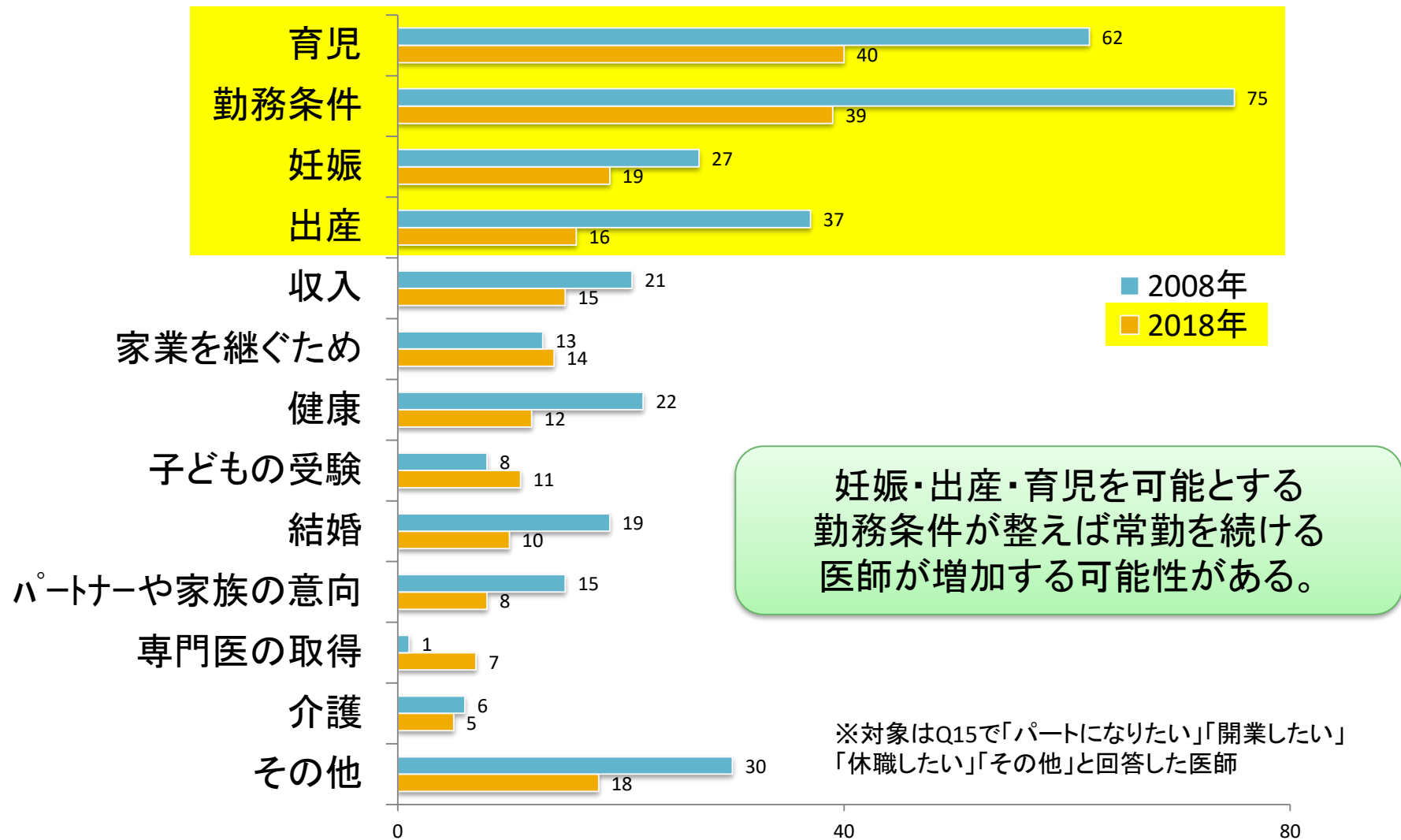
## Q15: 今後の希望は?

次に今後勤務医を辞めることを希望する先生方にお聞きした。



対象:勤務医のうち勤務医を続ける予定の無い先生

Q16:その理由は? (複数回答可)



2008年, 2018年ともに理由の上位は育児, 勤務条件, 妊娠, 出産であった。

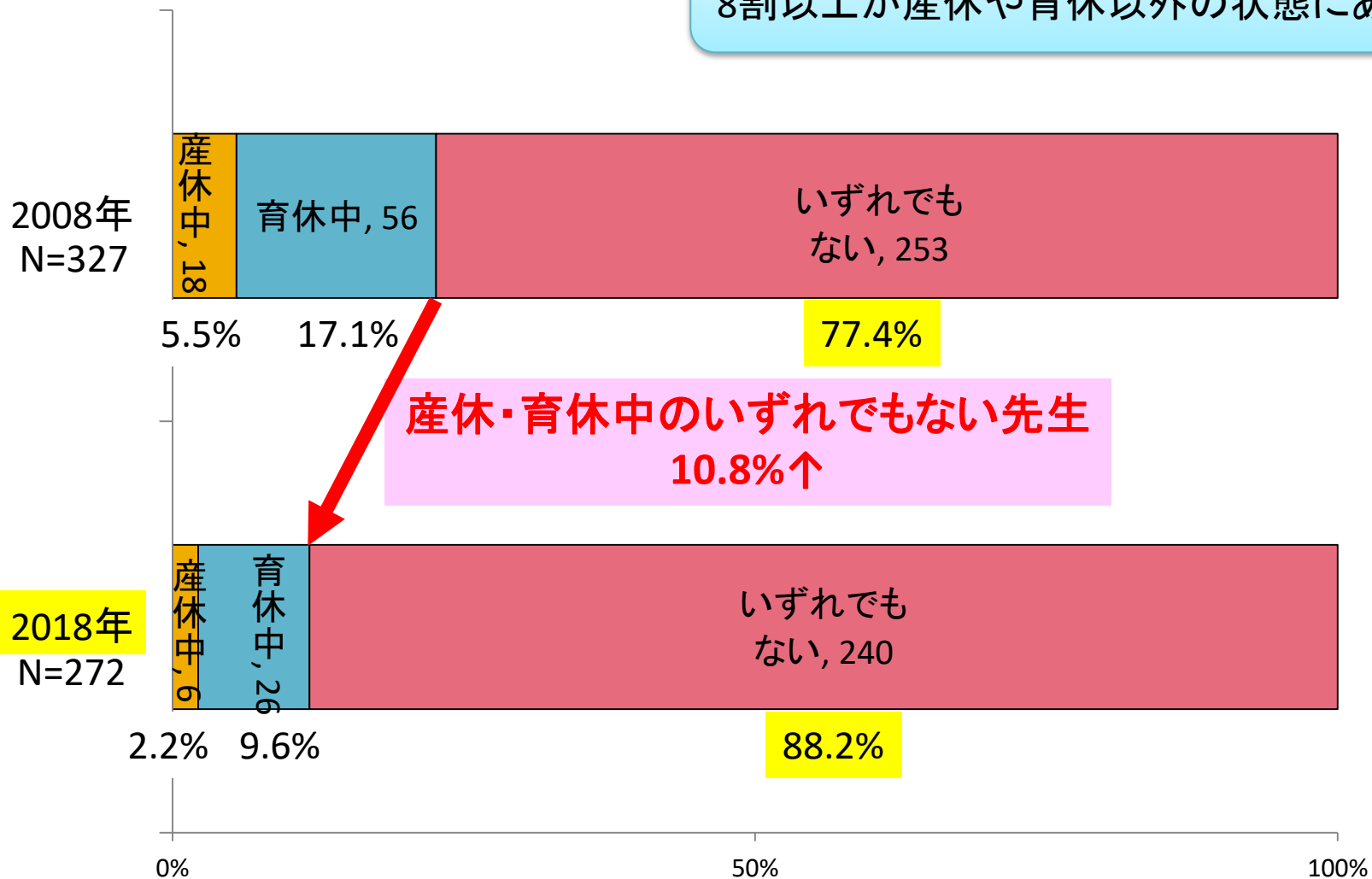
# 非常勤・休職中の先生への設問

17～22



# Q17:現在の状況は?

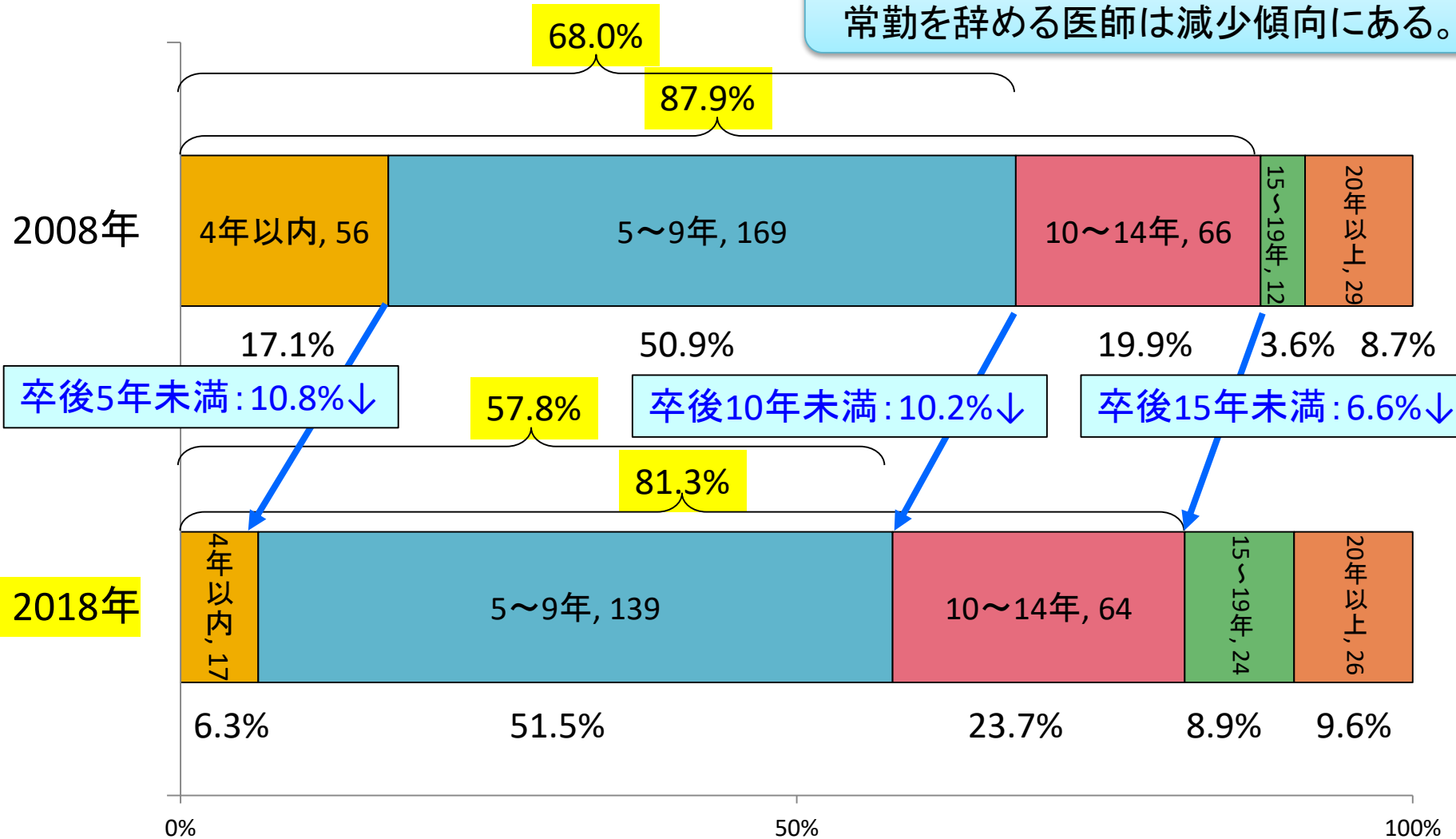
現在、非常勤・休職中の女性医師の8割以上が産休や育休以外の状態にある。



非常勤・休職中の医師の状況として産休育休以外が最多をしめていた。

# Q18:常勤から非常勤・休職したのは卒後何年目?

10年前と比較し、卒後15年未満で常勤を辞める医師は減少傾向にある。



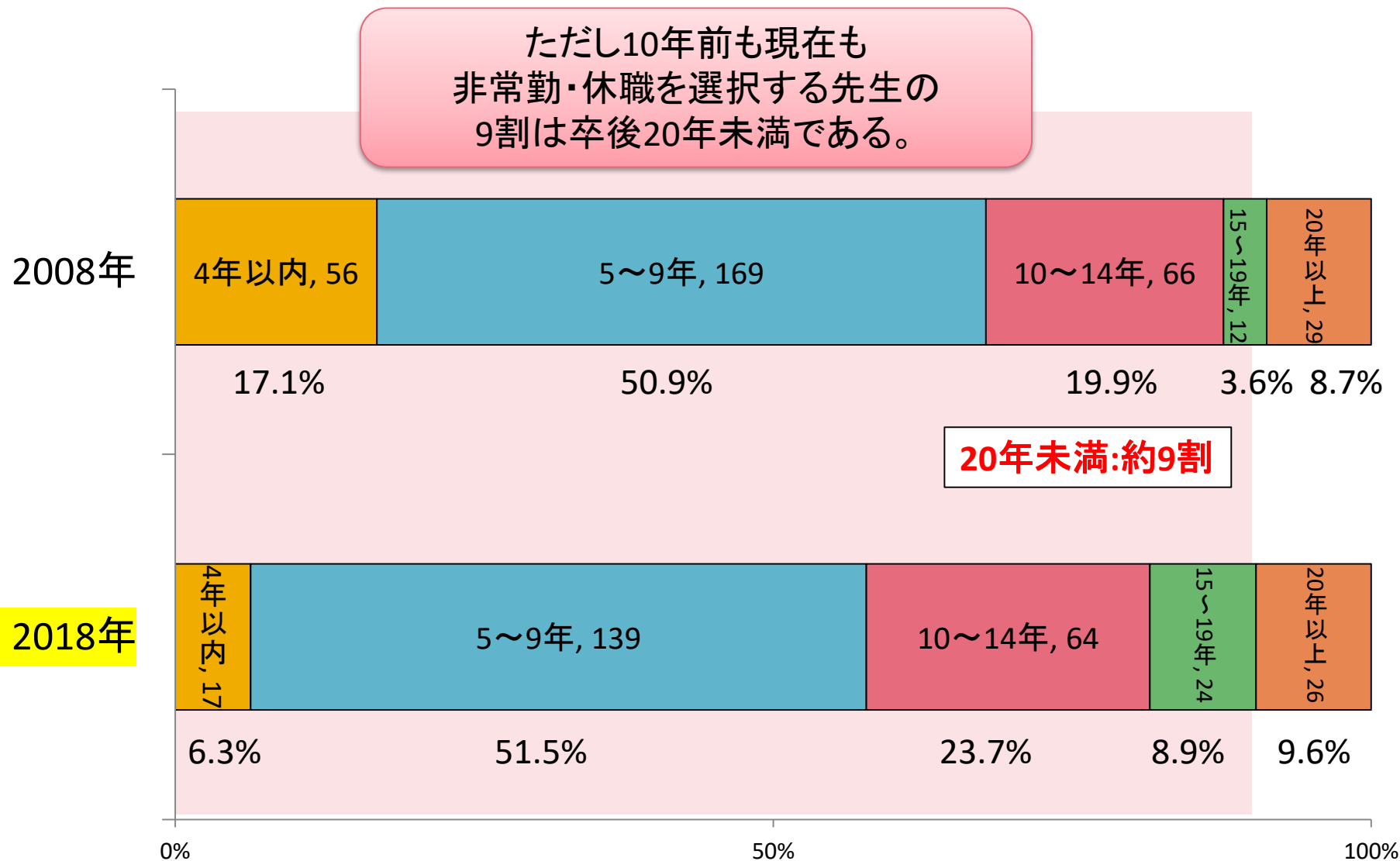
卒後5年未満: 10.8%↓

卒後10年未満: 10.2%↓

卒後15年未満: 6.6%↓

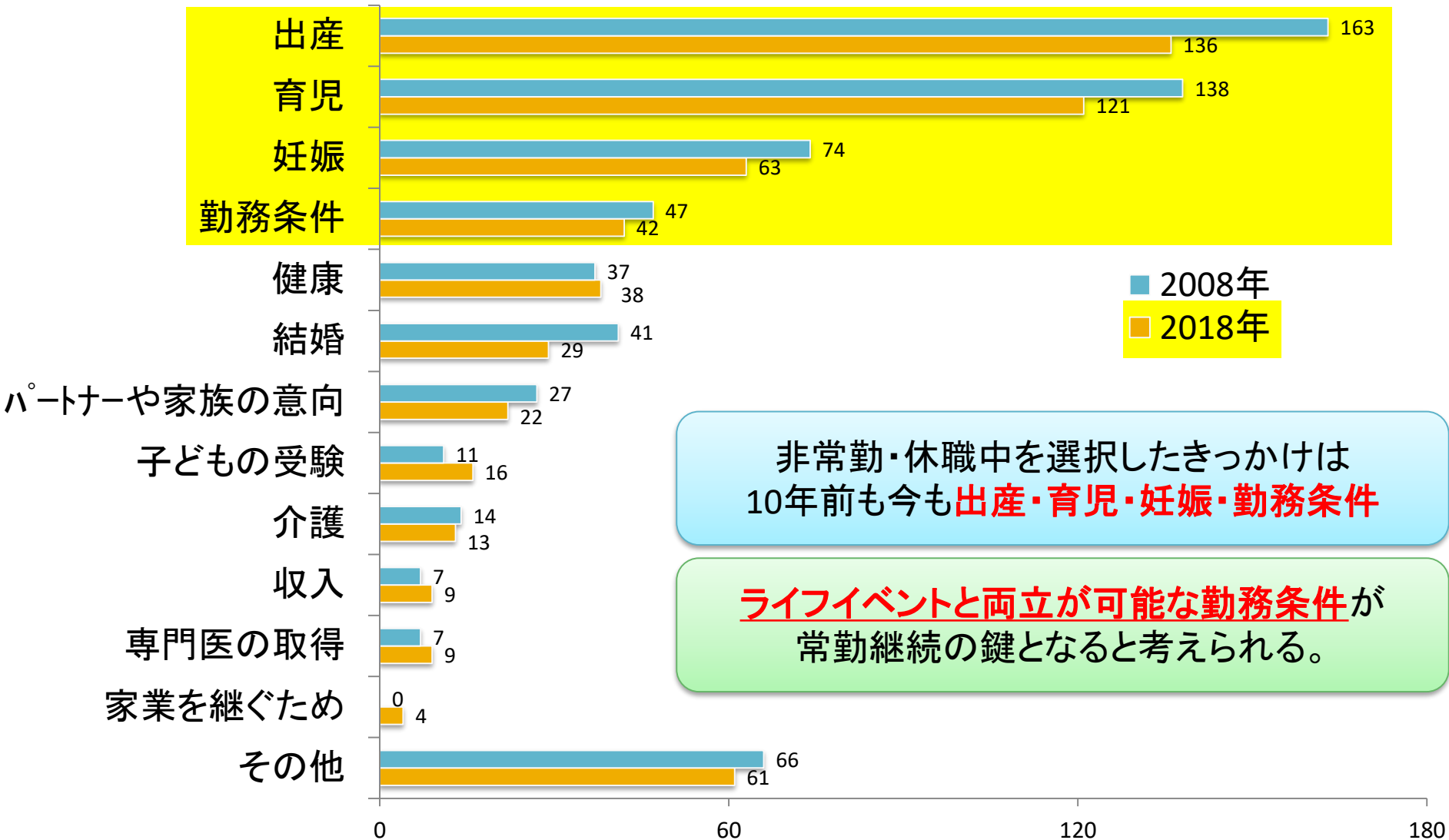
卒後5年未満では10.8%、卒後10年未満では10.2%減少し、卒後15年未満では6.6%減少している。

# Q18:常勤から非常勤・休職したのは卒後何年目?



卒後20年未満の間に約9割の女性医師が非常勤・休職を選択している。

## Q20:非常勤・休職のきっかけは？（複数回答可）

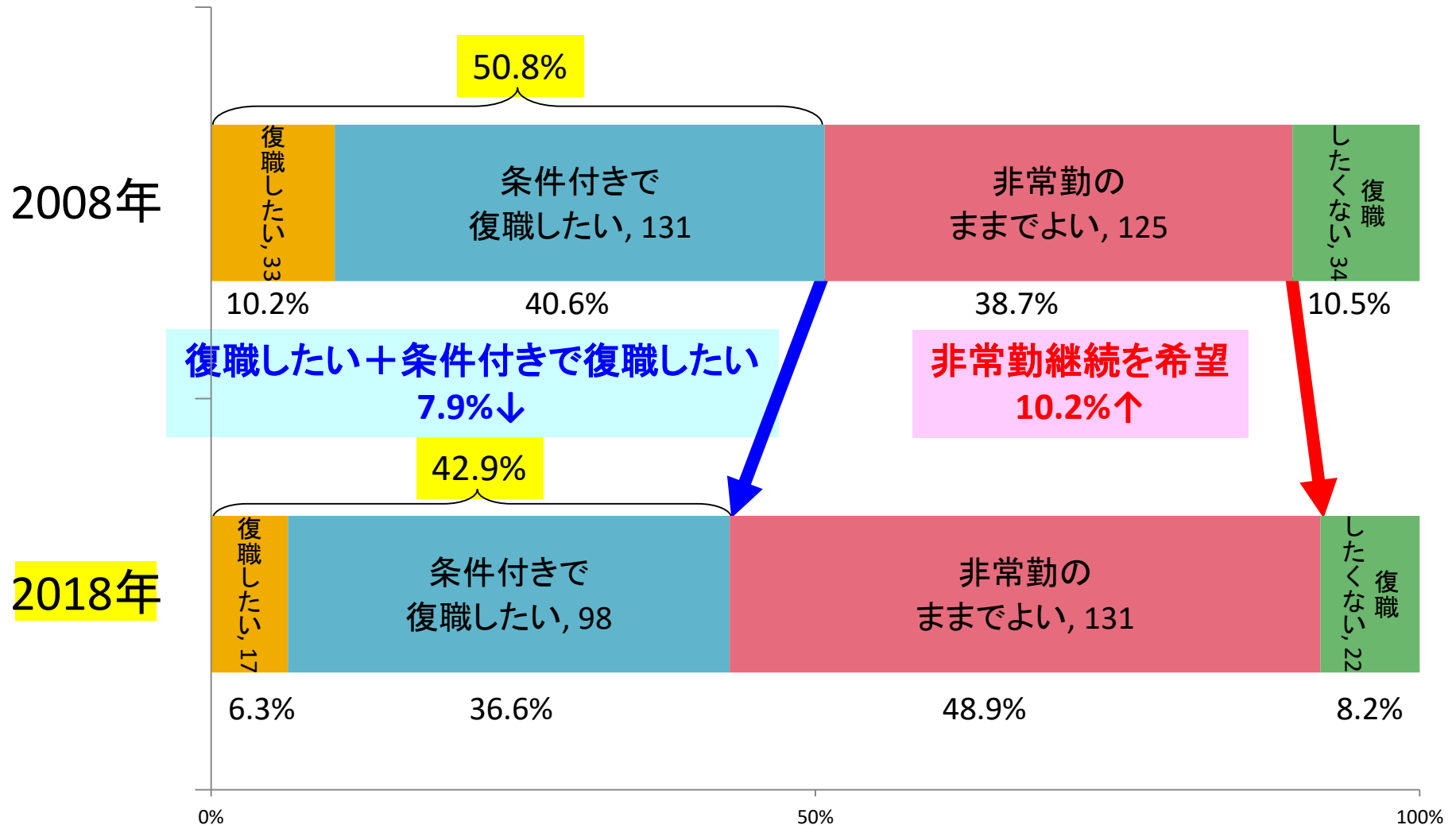


非常勤・休職中を選択したきっかけは10年前も今も**出産・育児・妊娠・勤務条件**

**ライフイベントと両立が可能な勤務条件**が常勤継続の鍵となると考えられる。

非常勤や休職のきっかけとしては2回のアンケートにおいていずれも**出産・育児・妊娠・勤務条件**が1位から4位を占めていた。

# Q21:今後常勤医に復職したいですか？

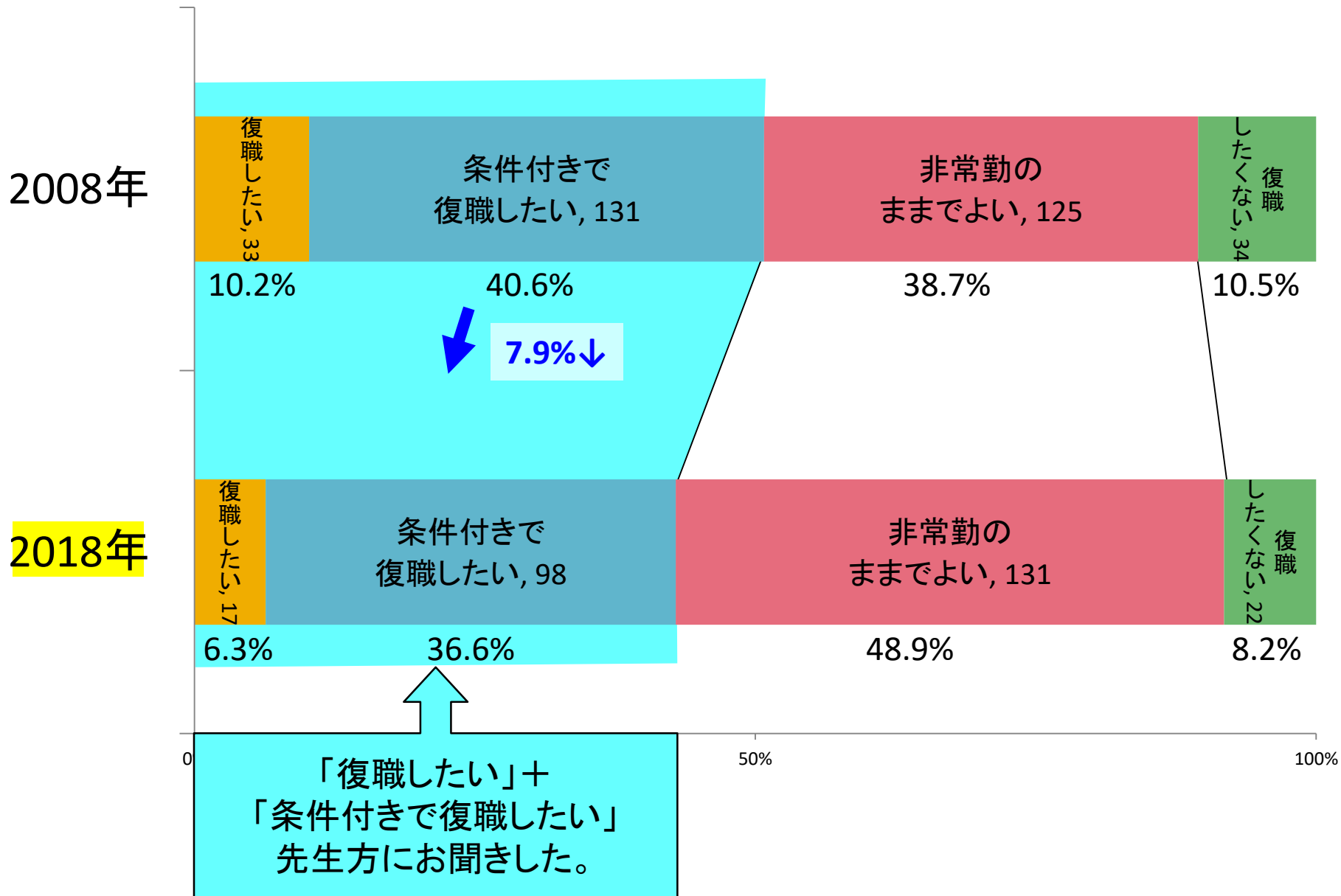


今後常勤医に復職したいかどうかについて

「復職したい」「条件付きで復職したい」が2008年:50.8%→2018年:42.9%と7.9%減少し

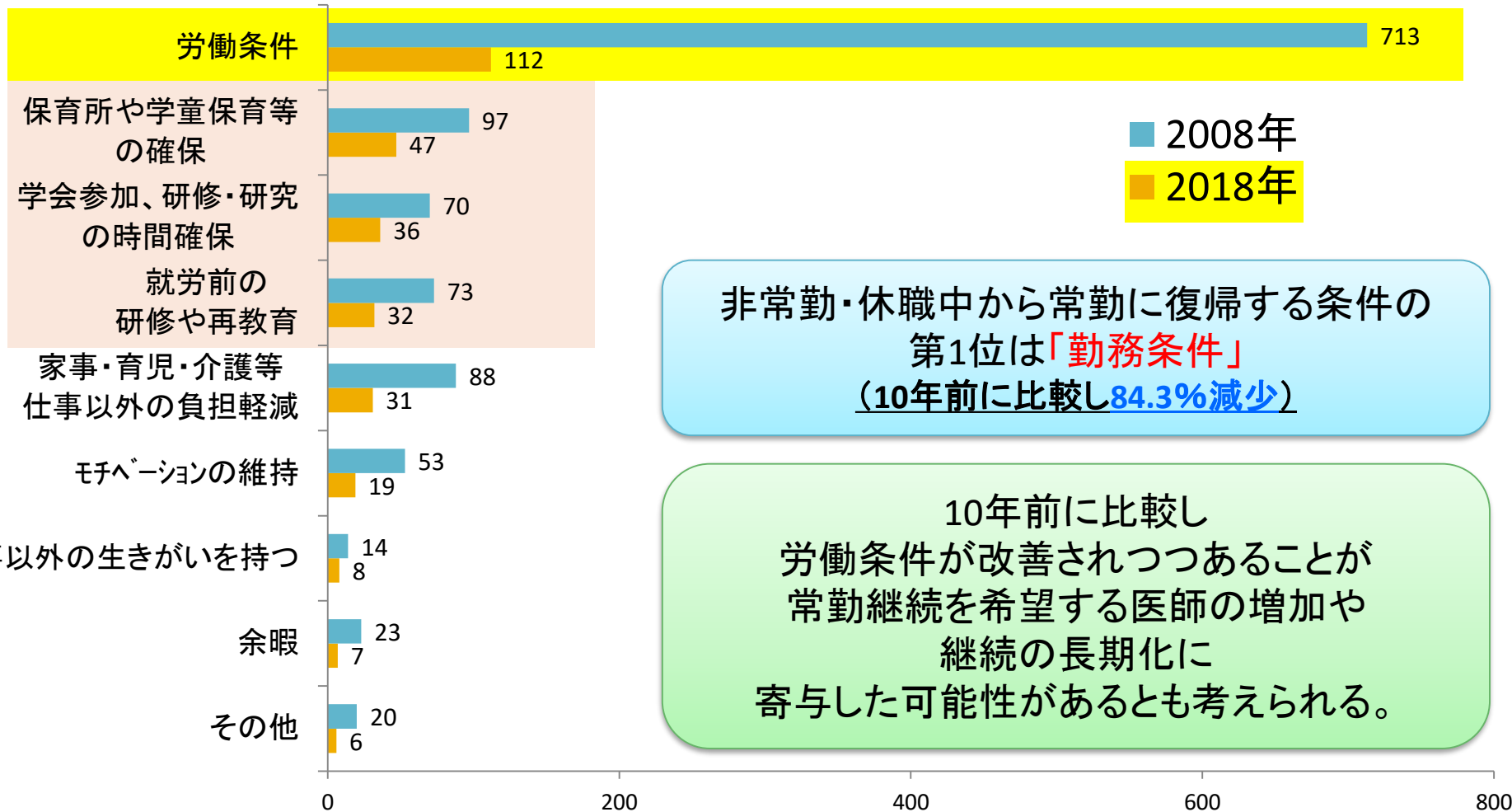
「非常勤のままでよい」は38.7%→48.9%と10.2%増加していた

# Q21:今後常勤医に復職したいですか？



対象：常勤に「復職したい」「条件付きで復職したい」の回答者

Q21-1:どのような条件があれば復職可能？（複数回答可）



非常勤・休職中から常勤に復帰する条件の第1位は「勤務条件」  
 (10年前に比較し84.3%減少)

10年前に比較し労働条件が改善されつつあることが常勤継続を希望する医師の増加や継続の長期化に寄与した可能性があるとも考えられる。

非常勤や休職中の医師が復帰のために希望する条件として2回のアンケートいずれでも「労働条件」がその1位を占めているが10年前に比較し84%減少  
 保育園や学童保育, 学会参加・研修・研究の時間確保, 就労前の研修などが続いた。

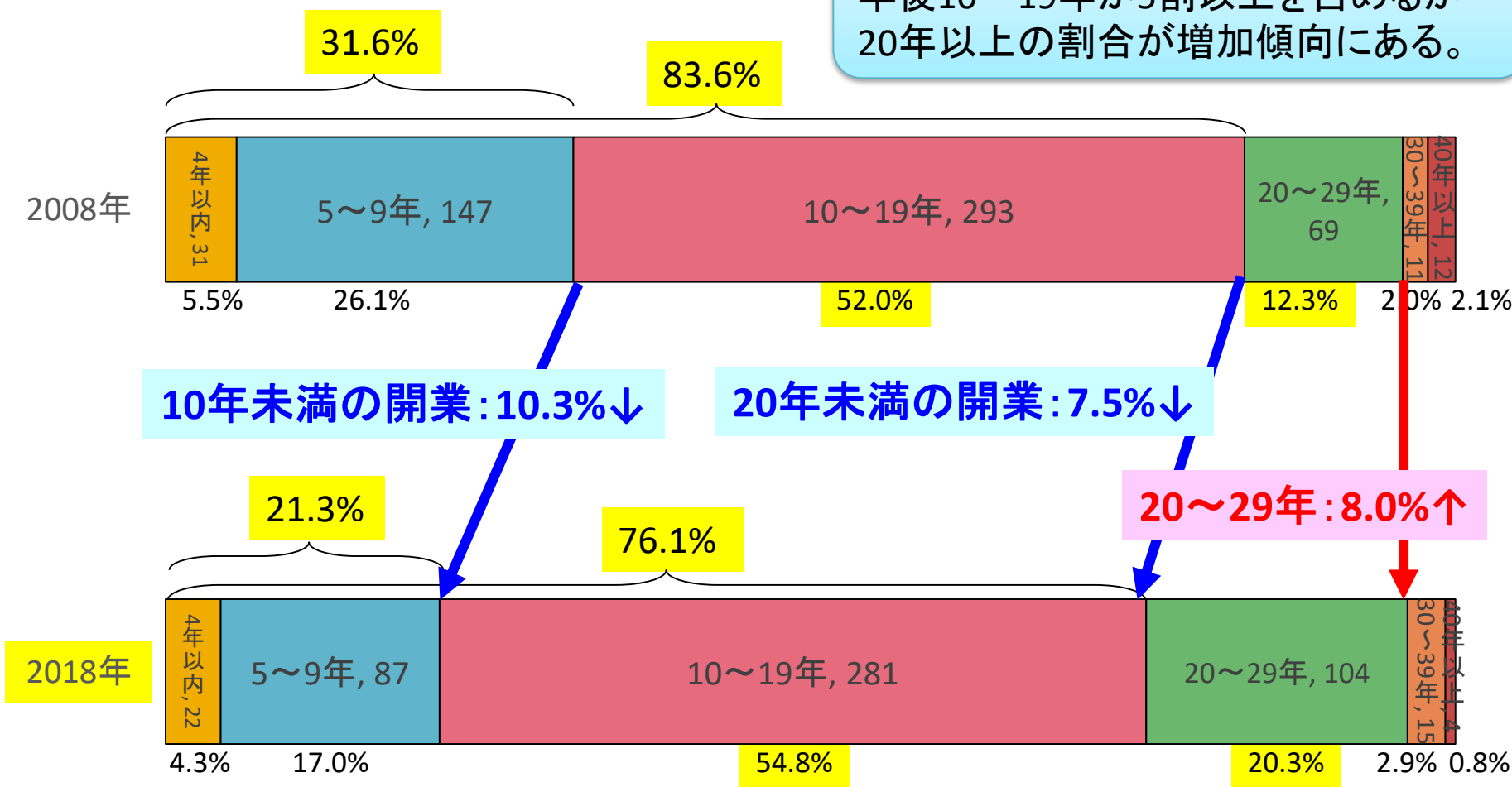
# 開業医の先生への設問

6~9



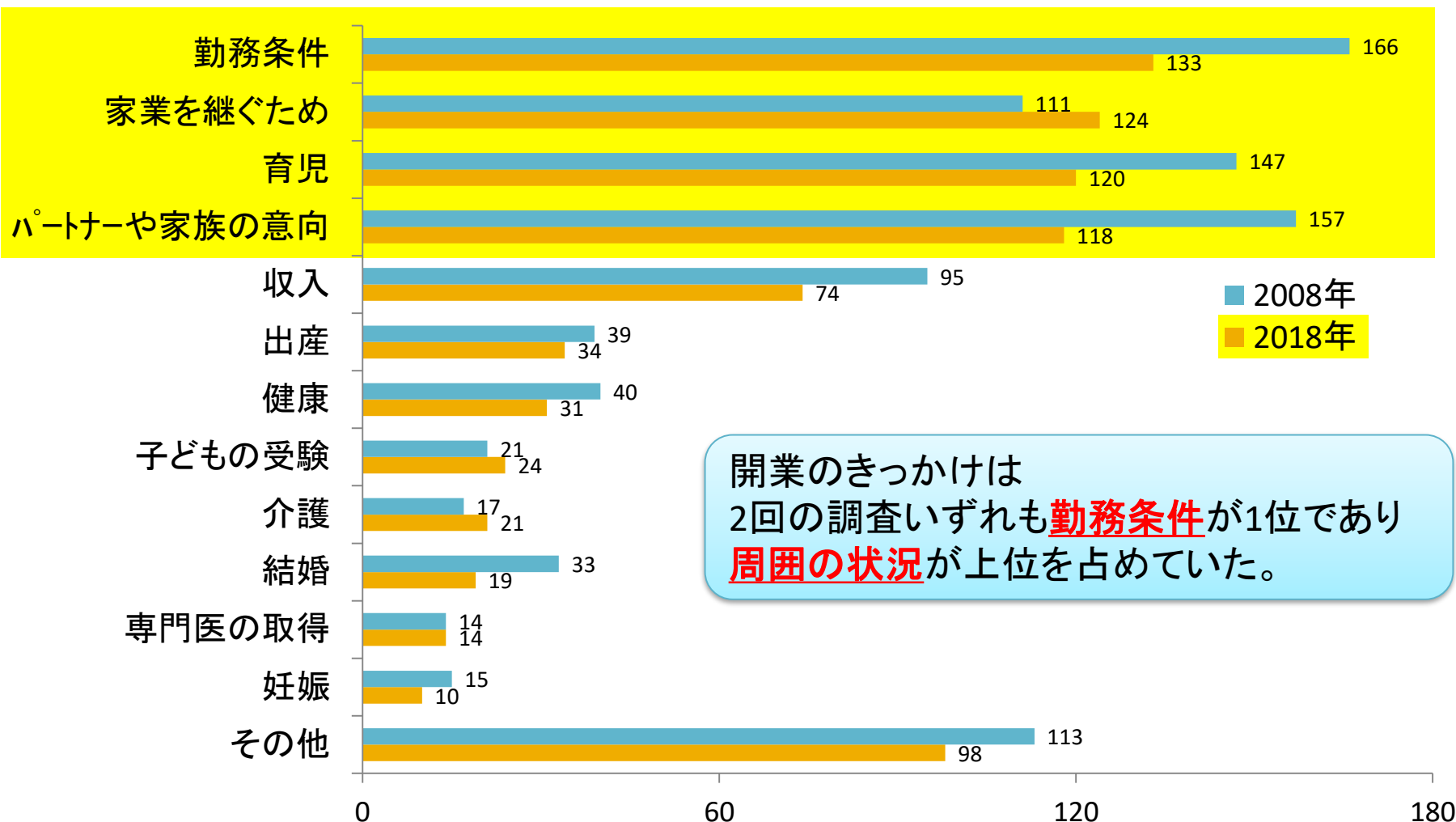
# Q7:開業は卒後何年目でしたか？

開業のタイミングは  
卒後10～19年が5割以上を占めるが  
20年以上の割合が増加傾向にある。



開業のタイミングは卒後10～19年が5割以上を占めるが  
卒後10年未満が31.6%→21.3%と10.3%減少し、20年未満が83.6%→76.1%と7.5%減少、  
卒後20～29年が12.3%→20.3%と8.0%増加していた。

# Q9:開業のきっかけは? (複数回答可)



開業のきっかけは  
2回の調査いずれも**勤務条件**が1位であり  
**周囲の状況**が上位を占めていた。

開業のきっかけは2回とも勤務条件が1位を占めており  
2008年は家族の意向が2位, 育児が3位で家業を継ぐためが4位  
2018年は家業を継ぐためが2位で次いで育児が3位, 家族の意向が4位であり  
開業の理由として**周囲の状況**が上位を占めていた

今回の2018年の調査について

- 常勤の医師
- 非常勤・休職中の医師
- 開業医

の先生方の比較

# Q7,11,18: 方向転換は**卒後何年目**？

現状の8割余りの女性医師：

・勤務医：10年未満に一旦非常勤・休職

82.3%

勤務医の先生が一旦非常勤や休職まで



現状の8割余りの女性医師：

・非常勤・休職する医師：5～20年で決心

84.1%

常勤から非常勤または休職まで

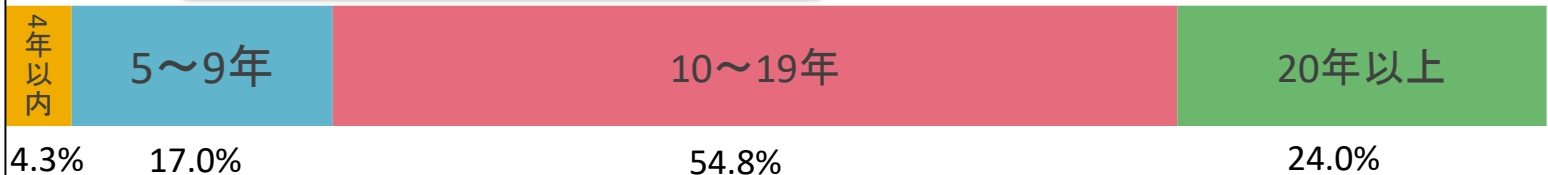


現状の約8割の女性医師：

・開業は10年以上経過して選択

78.8%

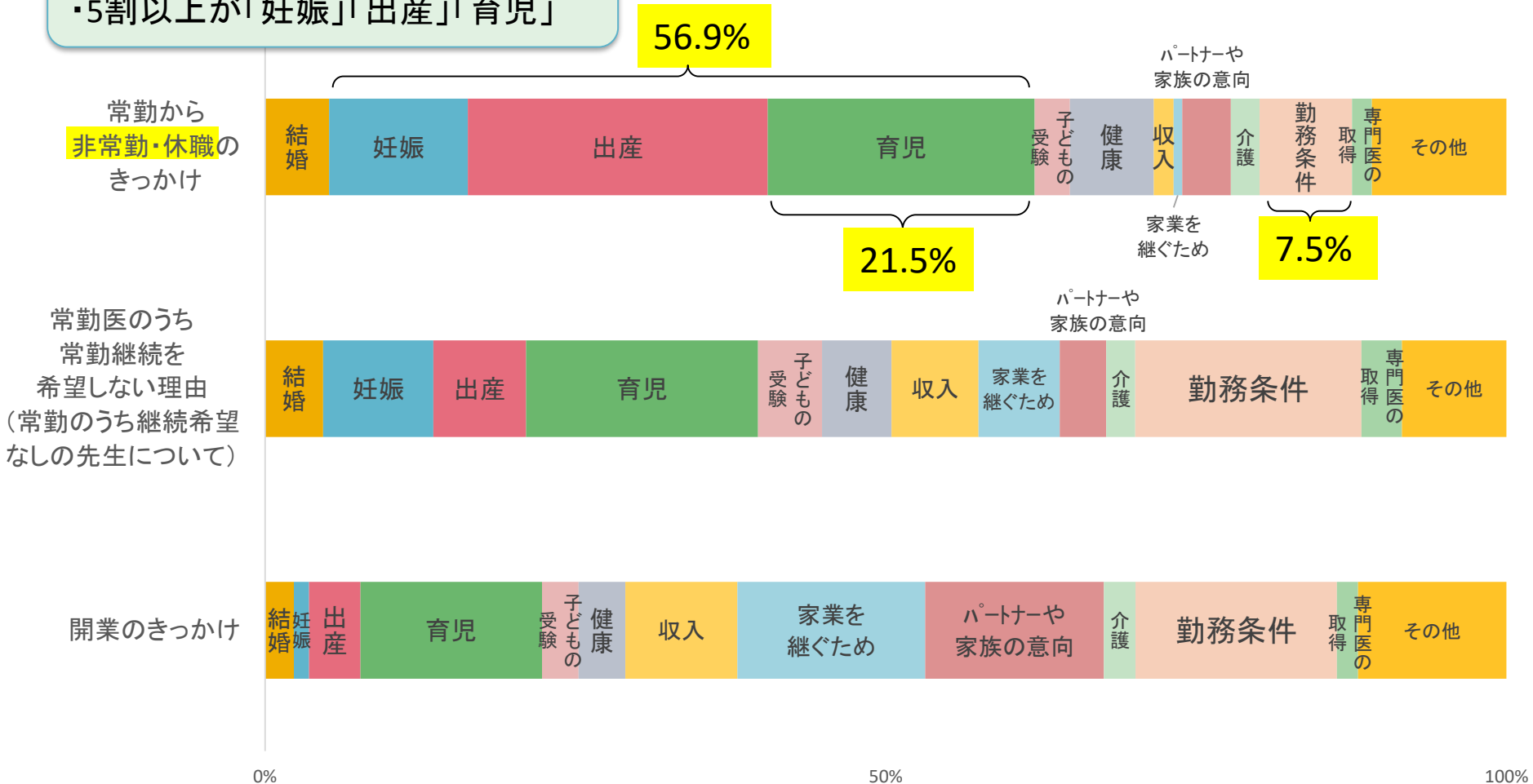
卒業から開業まで



勤務医の先生が一旦非常勤・休職する時期は8割以上が10年未満、非常勤・休職中の先生が常勤を辞めた時期は8割以上が5～20年未満、開業の先生が開業した時期は8割弱が10年以上であることがわかった

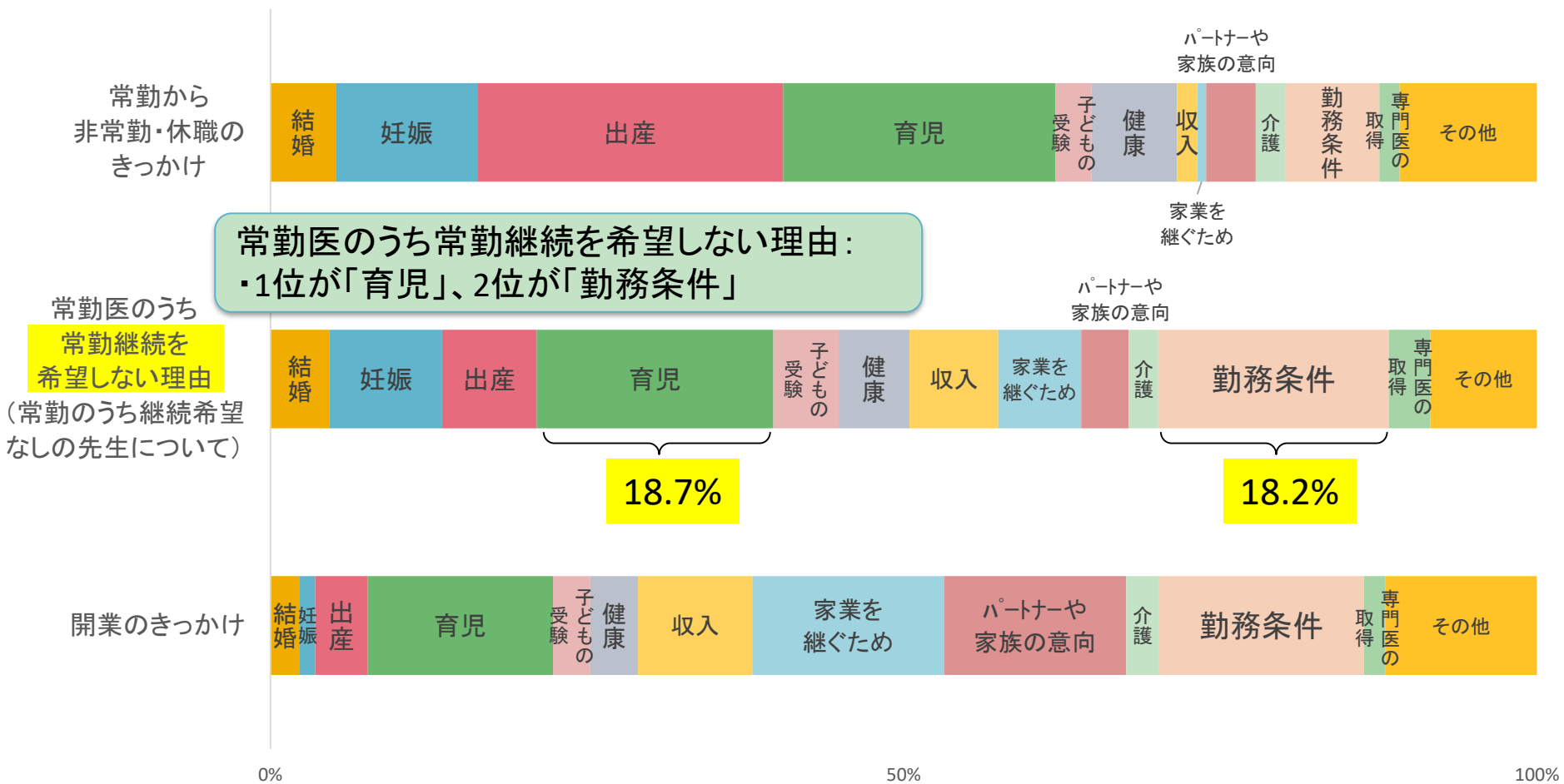
# Q9,16,20: 方向転換のきっかけや理由

常勤から非常勤・休職のきっかけ:  
・5割以上が「妊娠」「出産」「育児」



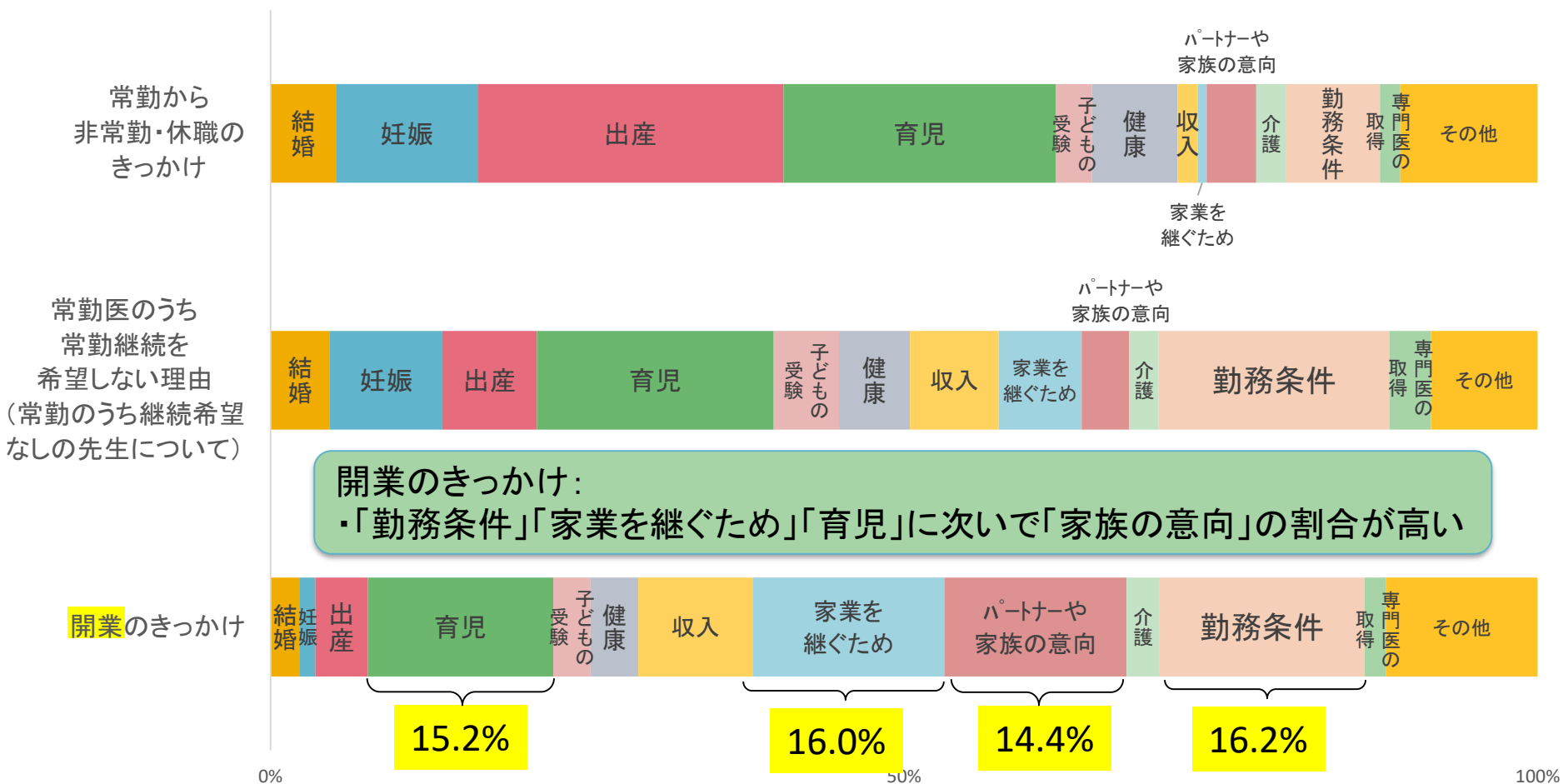
常勤から非常勤・休職のきっかけの過半数が「妊娠・出産・育児」で計56.9%

# Q9,16,20: 方向転換のきっかけや理由



常勤医のうち常勤継続を希望しない理由の上位は「育児」と「勤務条件」であり

# Q9,16,20: 方向転換のきっかけや理由



開業のきっかけ:  
 ・「勤務条件」「家業を継ぐため」「育児」に次いで「家族の意向」の割合が高い

開業のきっかけにおいては、「育児」「家業を継ぐため」「勤務条件」に次いで「パートナーや家族の意向」の割合が高かった

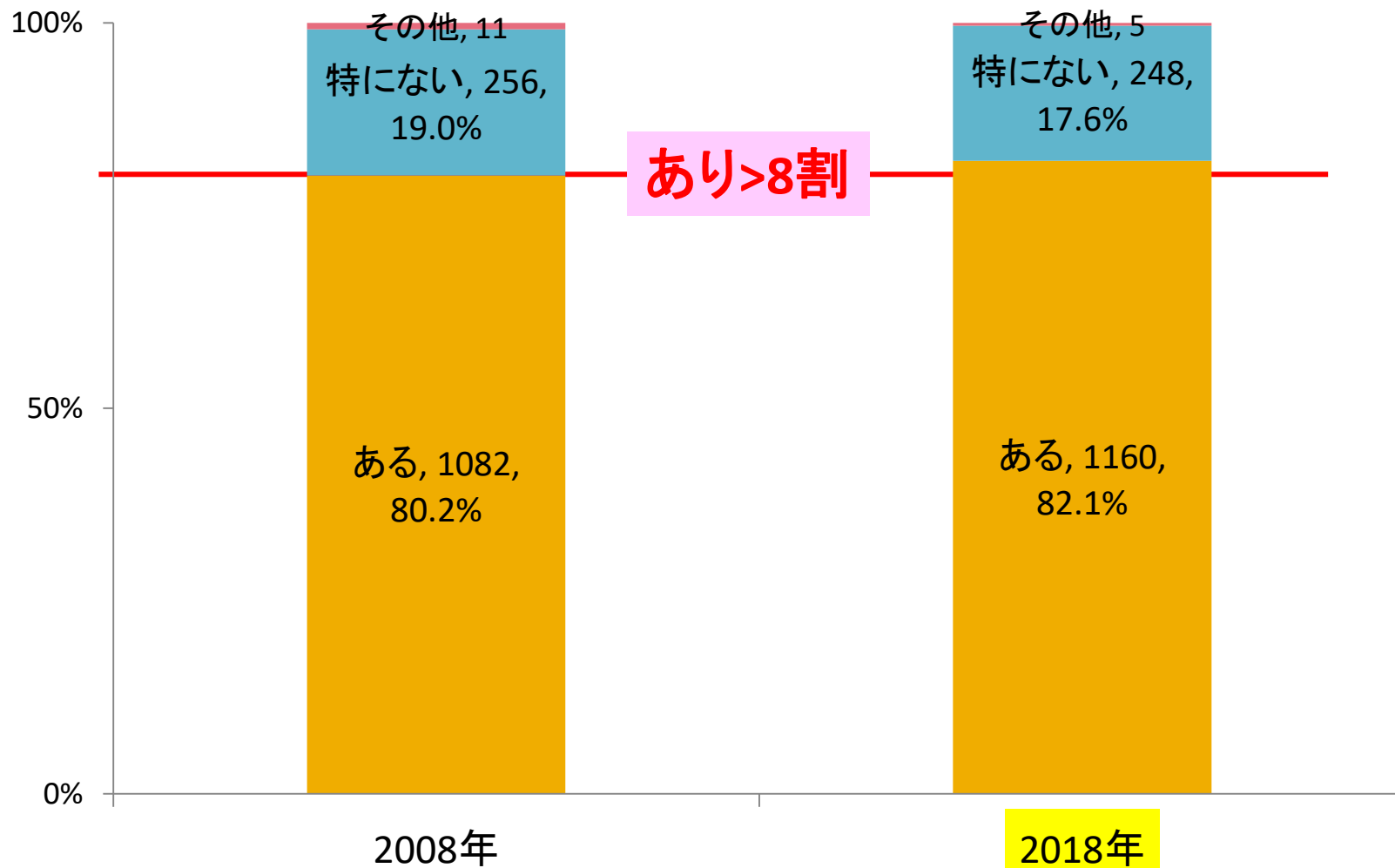
# すべての先生への設問

23～24



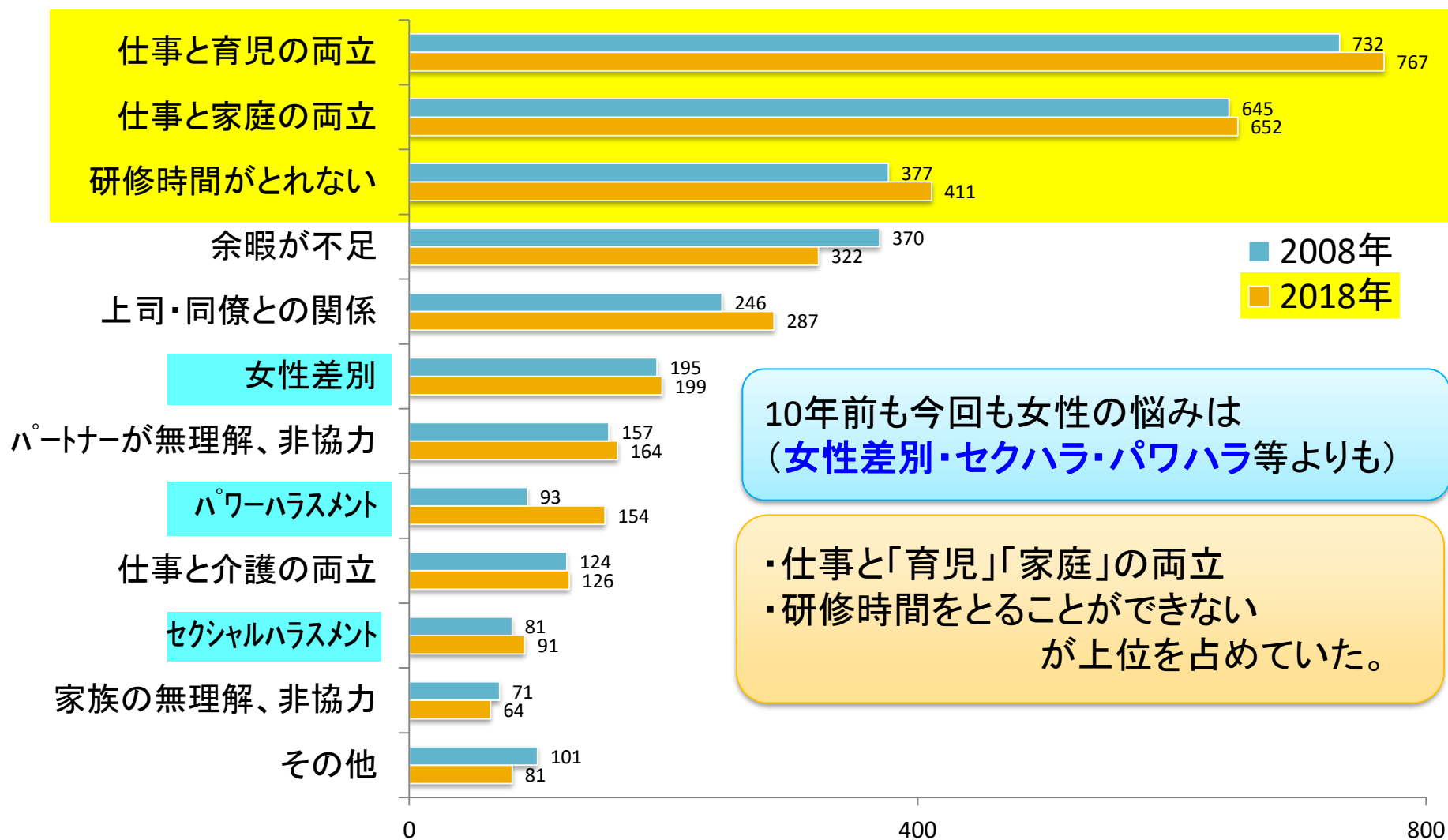
# Q23:女性医師としての悩みはありますか(ありました)か?

8割以上が女性医師としての悩みの経験あり



対象：女性医師としてのなやみがある(あった)回答者

# Q24:どのような悩みでしたか？（複数回答可）



10年前も今回も女性の悩みは  
(女性差別・セクハラ・パワーハラ等よりも)

- ・仕事と「育児」「家庭」の両立
- ・研修時間をとることができない  
が上位を占めていた。

女性医師としての悩みの上位は2回のアンケートいずれでも

1位:仕事と育児の両立, 2位:仕事と家庭の両立, 3位:研修時間がとれないであった。

# まとめ

- 2008年に比較し2018年は耳鼻咽喉科の女性の勤務医が増加し、また勤務医を継続したい医師が増加していることが確認された。
- 仕事と育児や家庭の両立に悩む女性医師の姿が浮き彫りとなった。
- 男女問わず、すべての医師が働き続けやすい勤務条件が全国的に整うことにより、医療が充実し得ると考えられた。